

## 『相続・遺言のトラブル相談Q &amp; A』

## 目次

**第1章 相続人と相続分**

Q1	相続の開始	2
Q2	相続人の範囲と順位	7
Q3	二重資格の相続人	11
Q4	内縁配偶者の相続	15
Q5	法律により相続資格が奪われる場合があるか	19
Q6	被相続人の意思により相続資格が奪われる場合があるか	23
Q7	死後認知を受けた子が遺産を取得するための手段	27
Q8	単純承認があったとみなされるのはどのような場合か	31
Q9	相続の放棄	35
Q10	相続分の譲渡・放棄とその後の遺産分割手続	40
Q11	相続分なきことの証明書（特別受益証明書）	44
Q12	相続分はどのように定まるか	48

**第2章 特別受益と寄与分**

Q13	生前贈与（特別受益）と相続分	54
Q14	生命保険金と特別受益	61
Q15	寄与分	66
Q16	寄与分の算定方法	71
Q17	寄与分と相続分の関係	75

## 第3章 特別寄与制度と配偶者居住権

Q18	特別寄与制度	82
Q19	配偶者居住権	87
Q20	配偶者短期居住権	92

## 第4章 相続の対象

Q21	相続の対象とならない財産	98
Q22	遺産をどのように管理したらよいか	108
Q23	勝手に遺産を処分したらどうなるか	113
Q24	預金の取引履歴の開示と貸金庫の開扉	118
Q25	遺産分割前に預貯金の払戻しをすることができるか	122

## 第5章 遺産分割協議

Q26	遺産分割協議書作成上の注意点	128
Q27	相続財産の評価の時期	131
Q28	遺産の一部についての遺産分割協議	135
Q29	共同相続人に認知症の者や未成年者がいる場合の 分割協議	139
Q30	遺言がある場合の遺産分割協議の要否、遺言と異なる 遺産分割協議の可否	143
Q31	相続人が行方不明の場合の遺産分割協議	146
Q32	遺産分割協議で定めた義務を履行しない場合の解決策	150

## 第6章 遺産分割調停と審判

Q33	遺産分割調停・審判手続	156
Q34	遺産分割の方法	161
Q35	共有名義の遺産があるときの分割方法	166
Q36	共同相続人の1人が共有持分を第三者に譲渡した場合の 分割方法	171
Q37	遺産から生じた賃料と管理費用	176

## 第7章 相続人の不存在

Q38	相続人がいない場合の遺産	182
-----	--------------	-----

## 第8章 遺言書の作成

Q39	遺言書にはどのようなことを書くのか	188
Q40	遺贈の種類と効力	191
Q41	相続分の指定	198
Q42	特定財産承継遺言	202
Q43	遺言書の保管制度	206
Q44	自筆証書遺言の方式と作成上の注意点	209
Q45	公正証書遺言の方式と方法	213

## 第9章 遺言の効力

Q46	「全財産を長男に任せる」という遺言は有効か	218
-----	-----------------------	-----

Q47	認知症の人が書いた遺言書	222
Q48	不倫相手への遺贈と公序良俗違反	226
Q49	遺贈の無効と財産の行方	231
Q50	遺言が無効となる場合と無効を主張する方法	235
Q51	遺言はどのように実現されるか	239
Q52	遺言はどのように取り消すことができるか	244

## 第10章 死因贈与

Q53	死因贈与と遺言との違い	250
-----	-------------	-----

## 第11章 遺留分

Q54	遺留分を主張する方法	258
Q55	遺留分および遺留分侵害額はどのように計算するのか	262
Q56	遺留分を侵害した人が複数いる場合の負担割合	269
Q57	遺言無効の主張をする場合に、遺留分侵害額請求権はいつ行使すべきか	274
Q58	遺留分侵害額請求によって、特定の不動産や金銭を取得できるか	277

## 第12章 涉外相続

Q59	相続人の1人が外国に居住している場合の遺産分割協議	282
Q60	在日外国人の遺言書作成方法	284

## 第13章 相続税

Q61	相続税の計算	288
Q62	小規模宅地の特例	294
Q63	相続税の申告および納税	300
Q64	相続税の配偶者の税額軽減	305
Q65	相続税の配偶者控除	307
Q66	相続時精算課税	310
	執筆者一覧	315